

研究課題：

8020 達成のリスクファクターと個人の条件に応じたシミュレーションモデルの作成

研究者名：池邊一典，三原佑介，松田謙一，多田紗弥夏

所属：大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 有床義歯学・高齢者歯科学分野

I. はじめに

加齢に伴って心身の健康状態は一般に低下するが，その個人差が大きくなることもよく知られている．本研究においては，どのような条件の人が，将来多数の歯を失い，高齢期に咬合・咀嚼機能の低下に陥ったのかを，80歳の被験者の実例から分析し，8020 達成リスクファクターを明らかにする．

II. 方法

本研究については，すでに大阪大学大学院歯学研究科倫理審査委員会（H22-E9）の承認を得ている．

被験者は，大阪大学，東京都健康長寿医療センター研究所，慶応大学が共同で行っている SONIC (Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians) Study の参加者である．被験者は，兵庫県伊丹市，東京都板橋区（以上都市部），ならびに兵庫県朝来市，東京都西多摩郡（以上非都市部）に在住で，80歳±1歳の人である．そのうち歯科のデータの得られた964名を分析対象とした．

調査項目は，口腔内状況は歯の数や部位，唾液分泌速度とした．社会経済的状況については，住居地域，経済状況，教育歴，小学生時の成績について，聞き取り調査を行った．心理的側面について，神経症傾向，外向性傾向，開放性傾向，親密性傾向，誠実性傾向について評価した．さらに喫煙・飲酒歴，食品摂取について，質問紙（Brief diet history questionnaire）を用いて調査した．

統計学的分析は，被験者を無歯顎，残存歯数が1-19本，20本以上の3グループに分け，上記の各項目による各群の人数比率や平均値を比較検討した．さらに，8020 達成者か否かならびに残存歯数を目的変数とし，上記の項目を説明変数としたロジスティック回帰分析を行った．統計学的有意水準は5%とした．

III. 結果

分析を行った被験者のうち，残存歯が20本以上の者は，431名（44.7%），1~19本の者は389名（40.4%），0本の無歯顎者は144名（14.9%）であった．8020 達成者は，男性に比べ女性の方が少なく，教育年数の短い者，小学生時の国語の成績が悪かった者に少なかった．8020 達成者は，現在喫煙している人では少なく，開放的性格の人は多かった．また8020 達成者は，その他の者に比べて，唾液分泌速度が速かった．食品摂取については，8020 達成者は，砂糖の摂取量が少なかった．

8020 達成者を目的変数とした多重ロジスティック回帰分析を行った結果，居住地域（都市部／非都市部，オッズ比：2.30）と現在の喫煙（都市部／非都市部，オッズ比：0.12）に有意な関連がみられた．

V. 結論

8020 達成者は，都市部に多く，非喫煙者に多かった．言い換えれば，非都市部の住人と喫煙者は，無歯顎になるリスクが高いと考えられた．